

1 校名・校章・校木

校名について

石巻市は、伊達藩の開藩以来、藩祖伊達政宗公が常に意を用いたところである。例を二、三あげれば、開藩にあたりその本拠地を日和山に考えたともいわれる。ローマに送る使節団の出発の地を月の浦にしたこと。川村孫兵衛に命じて北上川の水運を改善し、米を中心とする貨物の大集積地に作り上げたことなどである。

このようなことから、なにか政宗公の遺徳を偲ぶものがほしいと願っていたところ、政宗公の偉業の一つである貞山堀の延長ともいえる北北上運河の近くに小学校を建設することとなり、この小学校に政宗公の贈名である貞山の名をいただくこととし、石巻市立貞山小学校と命名された。

(当時の石巻市教育委員会教育長 故近江義雄氏談)

校章について

貞山の「山」を高い理想になぞらえて上にかかげ、中に貞小とデザインし、これに向かって輪のように皆仲よく、そして一人一人は川辺に根強く育つ野草のようにたくましくという願いを表した。



昭和49年6月24日制定

故 水野 せちゑ氏 作

(石巻市貞山5丁目)

校木について

校木「かしの木」

ブナ科の宮城県から南にみられる樹木である。堅くて丈夫なことから、船舶や車両材、楽器を作る材料として使われる。また、常緑樹であり、秋に実をつけられるなど、教育目標の「明るい じょうぶな子ども」のイメージに合致することから校木に制定された。開校10周年及び20周年を記念して父母教師会が植樹した。東日本大震災とその後の津波被害・浸水により立ち枯れしてしまい、現在は3代目の若木が植えられている。

学校の所在地

石巻市貞山5丁目3番1号

(平成5年10月1日 住居表示に関する法律により変更)

(旧住所 石巻市字新横堤103番地)